



# 光桂寺だより

第215号

真宗大谷派 光 桂 寺 〒838-0133 福岡県小郡市八坂201  
TEL 0942-72-2432 FAX 0942-72-2486 印刷 片山印刷(有)

## 御正忌報恩講ご案内

今年も残り少なくなつて参りました。皆様には何かとお忙しい毎日をお過しのことと思います。

今年は何んと言つても大きな問題は、新型コロナウイルスの流行が終息していないこと、流行から派生した色んなことが起こり、まだ進行中であります。経済の停滞はどう回復するでしょうか。来年のオリンピックはどうなるのでしょうか。GOTOトラベルのキャンペーンの行方は、などなど色んな深刻な問題が山積しています。首相も交代しました。斬新で効果のある取り組みが待たれるところでしょう。

さて真宗大谷派では、親鸞聖人のご命日に合わせて、京都の東本願寺では、十一月二十一日から二十八日まで、ご正忌報恩講が勤まります。残念ながら今年は縮小しての報恩講となりました。

親鸞聖人をはじめ、念仏の教えに生きられた先達(念仏の道を先に歩まれた、あとに続く人を導く人々)に思いをいたし、その恩徳に感謝し報いる法要が「報恩講」であります。

当光桂寺では、毎年十二月十七、十八日の両日報恩講を勤めております。今年最後の法要であります。どうかお誘い合わせのうえ、ご参詣くださるようご案内いたします。



期日 十二月十七日(木)・十八日(金)

○おとぎ 正午

○おつとめ 十三時

○法 話 十四時

講師 徳常寺様

※お世話前 十七日 八坂、馬渡

十八日 城、京手、十楽

よろしくお願いいたします。



講師紹介  
塚本 慈頭 師  
みやき町  
浄土真宗本願寺派  
徳常寺前住職

## おぼん(初おぼん)法要次第

○十二月十七日(木)

十八時 お勤め

十八時三十分 お話と茶話会

十九時 お開き

「初おぼん(初めて迎える報恩講)」は、初盆と同じように考えていただきますと分りやすいのですが、昨年の十二月から今年の十二月までの間に亡くなられた方のお宅で「報恩講(報恩感謝の法要)」として執り行なうものであります。(次ページへ)

今年も初おぼん（初めて迎える報恩講）を、昨年同様「おぼん」と合わせて執り行う事としました。

「初おぼん」に該当なさるお宅にご案内をいたします。十二月十七日に光桂寺にお出でいただき「初おぼん」をご一緒に勤めます。これによりこれまで「初おぼん」として各お宅にお参りしていた地域の方は、自宅ではなく本堂での「初おぼん」となります。先に申しましたとおり、これまでご案内をしていた「おぼん」の法要と合わせて行う事となります。

「初おぼん」として光桂寺にお出でいただく方の人数は問いません。該当の方のご一家以外も、亡くなられた方のご縁の方をお誘い合わせて参詣くだされば幸いでありませぬ。

なお、勝手ながらのお願いですが、十七日「初おぼん」にお参りいただくときに、少量で結構ですので、お供えのお茶菓子をご持参いただきますようお願いいたします。

### 永代経志ご寄付者ご芳名

誠にありがとうございました。

九月 様  
十月 様  
十月 様

### 婦人会追弔会の

### 講師の講話要約

お彼岸入りの九月十九日に、光桂寺仏教婦人会の追弔会の法要が勤まりました。久しぶりの法要でしたので、お参りいただく方が少ないのではと思っておりましたが、三十人以上の方々がお勤めとお話を聞いてくださり、大変嬉しく感じました。有難うございました。

講師の蒲原師のお話から、特に新型コロナウイルススに関しての部分に住職なりにまとめてみました。十分に内容をまとめきつてはおりませんが、お読みください。

### 心の闇に気付く 「まなこ」を持つとう



蒲原 総彦 師

病に対して「怖れ」を感じ、誰もが自分ほうつされたくないという自己防衛本能が作動することは当然のことですが、排除すべきは菌であるのに、必要以上に人間を排除しようとして差別や偏見が生じてしまいました。

偏見や差別を生じた構図は、コロナが原因でなく潮が引いて岩があらわになるように、コ

ナを縁に明らかになったのは、我々の抱える闇なのです。偏見や差別という恐ろしい病にかかっていながら、そのことに無自覚であります。コロナ禍と言われていますが、コロナの蔓延状況がどのようになっているか、その他の病気も含めて、死に至る病の現状全体を見ながら考えていくべきでしょう。死亡原因の第一位は「がん」ですが、年間の死亡者は約三十七万人に上っています。一日に千人以上の方が亡くなり続けているのです。

インフルエンザでも年間約一万人の方が亡くなっています。コロナで亡くなった方は現時点でおよそ一、五〇〇人位です。この後この一年間を予想すると三千人位になると予想します。罹る人の八割は無症状か、軽度の症状と言われています。このような統計上のことではありませんが、全体を見ながら考え、過敏に反応し過ぎにならないようにしていくことが、大切であります。

真宗の教えの言葉は目覚めを促し続けているのです。私たちに今必要なのは、自らの中にある闇に気付いていくことではないでしょうか。そしてその闇の中に人間がいることを見いだす「まなこ」を獲得していくことが、真宗の教えに出会うこととなります。

と、このように師の話を私（住職）は受け取りました。このほか「供養」のあり方、「ごめんなきい」のひとこと、弥陀の「大悲」の心などをお話いただきました。

## 上山奉仕中止のおわび

皆さんに呼び掛けておりました、本山への上山奉仕の件、受け入れ定数に及ばなかった為、今年度は中止としました。お申し込みくださった方には誠に申し訳ありませんでした。また機会を作りますので、今回申し込みされなかった方も含め、思い立ちをお願いしておきます。

## 本山納金のご依頼をいたします

毎年お願いいたしておりますが本山納金、今年もどうぞよろしくお願いいたします。総代さん、世話人さんを通してか、振込みや書留、現金によりお納めください。

○今年度の本山納金の負担額 7千円

※二〇二〇年度の光桂寺の納金の額

- ・一、〇二三、六〇〇円 (本山ご依頼額)
- ・一三六、二〇〇円 (法要懇志金)

## 庫裏建設についての

### 目標懇志額が決まりました

十月二十四日に開かれた光桂寺門徒会総会において、庫裏建設についての目標懇志額が決まりました。内容については、次に上げている経過報告をご覧ください。

なお、具体的な徴収の仕方などについては、今後光桂寺総代会で決めて、三月予定の総会で最終決定をすることとなりました。

※図面については、目下建設委員会で検討中

です。

## 庫裏建設について 門徒会総会までの経過報告

### 庫裏建設に付いての

### 経過をお知らせします

#### ◎経過報告

- ① 早急に進めることとなった理由(①～③)  
① 住職の友人から、庫裏建設に使って欲しいとの申し出があり、高額寄付があったこと。
- ② 寄付者からの「入金後早期に建設を始めてもらいたい」という意向が住職に伝えられていること。
- ③ 寄付者も住職も共に高齢者であるので、早急に建設計画が進む事を願っていること。
- ④ ①～③の経過をふまえて、緊急に開いた八月六日の光桂寺総代会で、まず庫裏建設をスタートするために、最初に設計を依頼する建築士の承認をした。
- ⑤ 設計担当建築士 一級建築士 塔本 研作  
庫裏建設委員長からの提案により、持ち回りに審議によって、委員会委員として東原一広氏の追加承認をした。
- ⑥ 八月二十九日に庫裏建設委員会が開かれた。追加の建設委員の委嘱状交付ののち、役員選任をした。
- ⑦ 会計担当 東原一広氏  
調査・企画委託契約を、塔本建築士と九月四日にした。
- ⑧ 建設委員会で図面の検討をする場合に、

⑨

建設費の枠(目安)がはつきりあった方が進めやすいとの意見もあり、九月五日に臨時の光桂寺総代会を開いた。その結論を門徒会総代会に提案することとした。十月十日に開かれた門徒会総代会で、光桂寺総代会より提案された目標の庫裏建設懇志額が承認された。

その内容は

- ・現時点での図面による庫裏建設費予想総額(付帯工事を含む)

建坪約百三十坪の建物(庫裏)を想定、坪単価を八十万円として計算され、その他の付帯工事を含む、諸経費の予想額をプラスしたのが建設費の予想総額である。

・建設費予想総額

約 一四四、〇〇〇、〇〇〇円

・懇志金目標予定額(右記総額の半額)

七二、〇〇〇、〇〇〇円

・一戸当たりの目標懇志額(一律)

二五〇、〇〇〇円

※総工費が増額になってもこの一戸当たりの目標懇志額は上げない

⑩

十月二十四日に開かれた光桂寺門徒会総会で、光桂寺総代会より提案された案が承認決定された。なお、予想総工費が増額しても目標懇志額は上げないことと、具体的な徴収の仕方などについては、今後光桂寺総代会で決めて、三月予定の総会で最終承認をし決定をすることとなった。

## 二〇二一年度の年忌法要

来年、二〇二一年（令和三年）の年忌に該当する年は、次のようになっております。該当するかどうかは、お正月本堂に掲示します「年回表」をご覧ください。

真宗では、一周忌から百回忌までを年忌としております。五十回忌で終わりではありませんので、ご注意ください。

また、一周忌のみ一年目です。三回忌以降は、数え年で計算します。満年数より一年早いのでご注意ください。

一周忌	二〇二〇年（令和二年）	没
三回忌	二〇一九年（平成三十一年）	没
七回忌	二〇一五年（平成二十七年）	没
十三回忌	二〇〇九年（平成二十一年）	没
十七回忌	二〇〇五年（平成十七年）	没
二十五回忌	一九九七年（平成九年）	没
三十三回忌	一九八九年（昭和六十四年）	没
五十回忌	一九七二年（昭和四十七年）	没
百回忌	一九二二年（大正十一年）	没

ご法事を、土曜日・日曜日にされるようでしたら、早めにお知らせください。

土、日はご法事の希望が集中しますので、ご希望が適わない場合がございます。平日もどうぞお考えください。

なおご法事は、年忌該当の年であれば、その年の中で済まされればよいのであって、ご命日前でも、ご命日後でも構いません。（但し十二月三十一日は、翌日でなく十二月三十一日までに済ませましょう）



### 秋の永代経勤まる

秋の永代経は、台風による天候が心配されましたが、回復し無事勤めることができました。参詣の方も昨年よりはやや少なかったものの、講師の先生のお話を熱心に聞いていただきありがとうございました。

### 謹んでおくやみ申し上げます

九月二十三日	平方
十月二日	久留米
十月三日	小郡
十月六日	平方
十月二十六日	十楽
十一月十一日	久留米

### お正月のお内佛（仏壇）のおかざり



- ・金属の仏具は金属磨きで磨きましよう
- ・花は、松やヒノキ、マキなどを真にして花を添えましよう



- ・打敷きを掛けましよう
- ・お餅を、お鏡にして供えましよう



- ・右のお内仏の中の真は、ヒノキです
- ・お鏡は小モチで代用しています